

# 2025 年度 自己点検・評価報告書

理工学部評価分科会

2025 年 2 月（最終報告）

## 基準4 教育課程・学習成果

### 1. 学修に関するもの

学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。また、学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。

#### 【1】今年度の自己点検・評価の方針・改善計画

##### ① 学修成果の測定方法

※学部のアセスメントプランを活用した測定方法を検討ください。

科目レベル、LOs、成績についてAIによる分析・レポートを引き続き実施する。

##### ② 効果的な教育を行うための工夫（シラバス、授業形態、履修計画の指導等）

AIによる分析結果およびレポートを参考に科目ごとの改善案を作成し科目担当者と共有する。

#### 【2】今年度の自己点検・評価結果

##### ① 学修成果の測定結果

各授業担当教員によりおおむね適切に測定された。

##### ② 効果的な教育を行うための工夫（シラバス、授業形態、履修計画の指導等）

シラバスについては例年通り教務課および学部長がチェックし、必要に応じて修正を求めた。授業形態や履修計画については、各授業担当教員により適切に検討された。

### 2. 教育課程に関するもの

教育課程の編成・実施方針に基づき、学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

#### 【1】今年度の自己点検・評価の方針・改善計画

##### ① ナンバリング、ディプロマ・ポリシーと開講科目・成績の照らし合わせ

関連する情報をAIに提供し分析とレポートを行う。この結果に基づき評価の方針および改善計画を策定する。

#### 【2】今年度の自己点検・評価結果

##### ① ナンバリング、ディプロマ・ポリシーと開講科目・成績の照らし合わせ

学部独自のAIによる分析とレポートは行わなかったが、各学科の会議や教務委員会において、ディプロマ・ポリシーを念頭に置いた開講科目や成績評価方法の検討が行われた。

### 3. 就学状況

#### 【1】2025年度の自己点検・評価の方針・改善計画

##### ① 学籍異動の状況（卒業、休学、退学の状況など）

学籍移動に関する情報をAIに提供し分析とレポートを行う。この結果に基づき評価の方針および改善計画を策定する。

## 【2】今年度の自己点検・評価結果

### ① 学籍異動の状況（卒業、休学、退学の状況など）

学部独自の AI による分析とレポートは行わなかったが、休学者は近年微増傾向にあると感じられる。

## 4. 改善計画

### 【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画

#### ① 短期計画（アセスメント実施後 1～2 年の期間で実現可能な改善策）

なし

#### ② 中長期計画（アセスメント実施後 3～5 年の期間で取り組む改善計画）

なし

## 基準 5 学生の受け入れ

### 1. 学生の受け入れのための広報活動全般について、適切に実施しているか。

- ・オープンキャンパスにおける取組み
- ・授業体験や姉妹校との連携事業などの実施状況

### 【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

1. オープンキャンパスでは、2026 年度からの理工学部 3 学科体制に合わせて、学科ごとに学科説明会、体験授業、研究室/実験室見学を実施する。これに加えて小中学生を対象とするわくわく実験コーナーを併設し、従来通り理科に対する興味付けを行う。また 2026 年度から実施する女子特別選抜入試に合わせて、アドミッションズセンター主催の女子高校生を対象とする懇談会を実施する。
2. PASCAL 入試改善のため、全学的なチャレンジプログラム LTD 方式を 2026 年度入試においても実施する。
3. 学部卒業生のネットワークの構築方法について検討する。
4. 関西創価学園の高校 2 年生対象の理数探究基礎および 3 年生対象の理数探究を継続するとともに、神田女学園との連携（探究授業のサポート）も継続する。
5. 学園との連携および学先生向けの広報活動の一環として、東京・関西の中学生を対象にジュニアサイエンススクールを実施する。また主に高校 2 年生を対象とするアドバンスサイエンスセミナーを実施する。

### 【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

1. オープンキャンパスでは、2026 年度からの理工学部 3 学科体制に合わせて、学科ごとに学科説明会、体験授業、研究室/実験室見学を実施した結果、来場者の興味に沿った学部の紹介が出来たと考えている。また、女子特別選抜入試に合わせて、アドミッションズセンター主催の女子高校生を対象とする懇談会「Café de Talk」を実施したところ、予想以上の参加者がおり 2027 年度入試においても実施したい。

2. 2026 年度 PASCAL 入試では、理工学部独自のプレゼンテーション方式を廃止し、全学的なチャレンジプログラム LTD 方式で実施したが、総合選抜型入試のひとつとして十分に機能した。
3. 学部卒業生のネットワークの構築方法について検討する機会は持てなかった。
4. 関西創価学園の高校 2 年生対象の理数探究基礎および 3 年生対象の理数探究、ならびに神田女学園との連携（探究授業のサポート）も継続した。
5. 学園との連携については、双方にとってより意義のあるセミナー等の開催に向けて、従来以上に学園側と綿密な協議を行った。

### 【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画結果

<短期計画（アセスメント実施後 1~2 年の期間で実現可能な改善策）>

なし

<中長期計画（アセスメント実施後 3~5 年の期間で取り組む改善計画）>

なし

## 2. 合格者に対する入学前教育等を適切に実施しているか。また入学後の学生に必要な支援（リメディアル教育・初年次教育等）を実施しているか。

### 【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

#### 入学前教育

理工学部では昨年度からすでに独自の入学前教育プログラムを実施しているが、今年度からは学園生対象の全学のプログラムが実施されるため、これに加わるとともに、学園生以外の入学決定者を対象に、従来通りの入学前教育を実施する（教材は更新される）。

#### 初年次教育

理工学部の 3 学科間では、入学してくる学生の興味や得意分野が大きく異なっており、またカリキュラムポリシーや養成する人材像なども独自のものとなっている。したがって、初年次教育に求められる要素には、“大学での勉強と生活に慣れてもらう”ことを目指す 3 学科での共通点と、“それぞれの専門分野の特色を理解してもらう”ことに主眼を置いた学科ごとに異なる点がある。これを踏まえて、学科ごとのプログラムを作成し初年次教育を実施する。

### 【2】今年度の取組みに関する点検・評価結果

#### 入学前教育

今年度は、全学の入学前教育プログラムのうち 1 回分を、従来から理工学部独自で行ってきた入学前教育を導入する形で実施した。その 1 回分の内容は以下の通りである。

#### [情報システム工学科]

Python は、AI、データサイエンス、Web アプリケーション、3D モデリング、数式処理など幅広い分野で使われているプログラミング言語で、読みやすく簡単に効率の良いプログラムを書くことが可能である。本授業はプログラミング言語 Python3 の入門編で、Python の基本について短時間で独学することができまる。本授業を学習する上で必要な予備知識はなく、プログラミングの初心者を対象とし

て、Python でプログラミングの初歩を学ぶ。

[共生創造理工学科]

高校までに学習する理科学科（物理・化学・生物）の概念と大学初年度で学ぶ理科学科（物理学・化学・生物学）の概念は大きく変わるものがある。その高校教育と大学教育のギャップを乗り越えるための橋渡しとなる高大接続講義を実施する。あわせて、大学で学ぶ講義の先取り学習として、大学2年生の必修科目である Python プログラミング演習で行う内容を学習する。さらに、基礎科目の学習のみならず、大学での学びの成果がどのように社会実装されていくか、共生創造理工学科における専門領域ごとに講義を行い、入学後の専門領域選択の事前学習とする。

初年次教育

理工学部の2学科間では、入学してくる学生の興味や得意分野が大きく異なっており、またカリキュラムポリシーや養成する人材像なども独自のものとなっている。したがって、初年次教育に求められる要素にも、“大学での勉強と生活に慣れてもらう”ことを目指す両学科での共通点と、“それぞれの専門分野の特色を理解してもらう”ことに主眼を置いた学科ごとに異なる点がある。これを踏まえて、学科ごとのプログラムを作成し初年次教育を実施している。来年度は3学科体制となり、更に分化した内容で実施する事になる。

### 【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画結果

<短期計画（アセスメント実施後1～2年の期間で実現可能な改善策）>

なし

<中長期計画（アセスメント実施後3～5年の期間で取り組む改善計画）>

なし

### 学生の意見聴取

主として以下の観点を参考に、今年度の点検・評価および今後の方針を記入してください。

- 履修、授業、L0s に関すること
  - ・ 全学の教育目標や3つのポリシーを認識していたか
  - ・ 履修科目を決める際に、その科目のラーニング・アウトカムズを意識したか
  - ・ 自身の学びを自己点検しているか  
(履修科目のラーニング・アウトカムズの修得や、授業アンケートの自己評価について)
  - ・ 今後、DPに掲げる能力を身に付けることが期待できるか
- 昨年度の学生からの意見聴取を受けて取り組んだ事項について
  - ・ 学生からの意見を受けて検討および実施した取り組み等のフィードバック
- 学生生活全般に関することや機構として意見交換した事項

### 【1】昨年度の自己点検・評価で課題となった事項および今年度の方針・改善計画

昨年度に引き続き、コンタクトグループにおいて、3ポリシーを説明することを周知徹底するとともに、初回授業の冒頭でシラバスを確認することで科目ごとのラーニング・アウトカムズを周知する。

**【2】今年度の取組みに関する点検・評価**

上記の改善計画を教授会で周知し、コンタクトグループならびに多くの科目で 3 ポリシーやラーニング・アウトカムズに関するアナウンスが行われた。

**【3】今年度の点検・評価に基づいた改善計画**

<短期計画（アセスメント実施後 1~2 年の期間で実現可能な改善策）>

なし

<中長期計画（アセスメント実施後 3~5 年の期間で取り組む改善計画）>

なし